

平成26年度 第2回学校協議会

## 平成26年度府立野崎高等学校第2回学校協議会議事録

日時平成26年11月21日

15:20～17:00

於 本校会議室

司会 水元教頭

記録 番本達也

### ●参加者

<協議会委員> (○印が会長)

○瀬島委員、 ㊦岡委員、 笹尾委員、 尾崎委員、 梅本委員、 西本委員

<事務局>

村田校長、 南畑教頭、 水元教頭、 樋口事務長、 榊首席、 佐野首席、 和田教諭、 宮崎教諭、 前田教諭、

諫山教諭 (欠席)、 番本教諭、 本田教諭 (欠席)、 水口教諭 (欠席)

### ●本日の議題

学校経営計画取組みの進捗状況について、 各分掌長からの報告、 本校の広報活動について

### 次第

- 1、 学校長挨拶
  - 2、 事務局より
  - 3、 協議、 意見交換
  - 4、 会長より
  - 5、 事務局より
- 

- 1、 学校長挨拶

### ○あいさつ

2学期も終盤を迎え、 体育大会、 文化祭も終わり生徒の底力を感じた。 生徒の様子は映像で見ていただいた通り。 その後の行事として保護者懇談会があり、 生徒は各々が新たな気持ちで取り組み始めた。 本日から2年は期末考査と12月から修学旅行を控えている。

### ○学校経営計画の進捗状況

⇒6月にお話した3つの重点目標を基に、 学校広報戦略PT、 学校経営改善PT、 また40周年行事に向けて具体的に取り組んでいる。

たとえば広報 PT では昨年度以上の中学校訪問、クリアファイルの作成、体験入学会、部活動活性化に向けてプロジェクトチームを立ち上げ取り組んでいる、それぞれの成果等は分掌部長から説明する。

- 生徒指導：多くの1年生が休まずに学校へ来ている。教員の対応の結果ではないか。全体の遅刻数は減少している。大きな行事のあと、一日の遅刻者数が3桁になる日が増え対応しているところ。
- 学校力の向上：中田教諭や水元教頭が中央研修に派遣した。この成果を学校運営改善につなげていきたい。また教育センターの「フォローアップ研修」に本校の4年目教員5名が参加し、そのうち2人が受講者を代表して研究授業を実施する予定。

第3回ではこれらの成果と課題の検討を行いたい。それに向けたご意見を頂戴したい。

## 2、事務局より

### ○授業改善の取り組みについて

授業アンケートは府立学校で統一して行われている。共通質問項目は8、9。その他は学校独自の質問項目である。第2回を12月にかけて行っている。結果は個人票にグラフで表している。これを全教員が分析し、改善案を検討してシートに記入、提出する。このシートを参考に管理職が授業観察を行う。現時点ではほとんどの授業が終了している。また、各教科でも分析、課題の明確化を行い、授業改善を進めている。

### ○アンケートの結果について。

生徒の評価は、回数を経るたびに数値が上がっている。野崎の教員が授業改善をしてきたことが、生徒に評価されてきている結果ではないか。今後もさらに授業改善が進むよう職員会議で意思統一をはかっている。

本日6限目の授業見学においても、1年生ではプロジェクターを用いた授業を行っていた。学校に8台あるプロジェクターの争奪戦になっている。校内予算で今後増やしていきたい。今後すべてのホームルーム教室の天井にプロジェクターが設置できるよう予算獲得したい。また、より効果的なICT活用の方法を模索する努力もするようになっている。ICT以外には、グループ学習を行うなどアクティブ・ラーニングを進めるような意識も芽生えている。

### ○広報より

#### ・中高連絡会

⇒中学校の先生方が数多く本校へ来てくださる機会、本校をアピールする最大のチャンスとして考え、授業見学や学校紹介映像を見てもらい、本校を正しく理解してもらっている。

- ・ 母校への手紙 ⇒作成したものを中学校に配布。来なかった学校に対しては持参。
- ・ 1年生に対し、高校生活アンケートを実施。生の声を資料として広報活動に利用。
- ・ 体験入学会 ⇒何か渡せるものはないかと考え学校独自のクリアファイルを作成。  
美術部、イラスト部に依頼。3名が応募し選考した。それを配布した。
- ・ 体験入学会の様子をスライドで確認。  
⇒153名の申し込みがあった。前年と比べても増えている。学校を見てもらいたいという気持ちから中学校訪問等をして広報活動している。また、本年度から WEB においても申し込みを実施。18名申し込みがあった。申し込み者の内23名欠席。前年と比べると減っている。飛び入りで7名の参加もあった。結果として137名が参加。前年と比べて増加している。女子の参加が多い。また、生徒会と有志の在校生が参加し、さまざまなサポートを行った。授業への参加や、授業後に校内、部活動見学を在校生が引率。今回、新たな取り組み。クラブ見学も初めて行った。クラブ活性化 PT から見てもらいたいという意見が出た。運動部6部、文化部8部の見学を行った。
- ・ 体験入学会アンケート（中学生へ）  
⇒前年度と比較しているアンケート。参加動機として学校に興味があるというものが多かった。アンケート結果からポジティブな意見が多かった。野崎のイメージが良くなったという意見が約80%あった。参加者の約半数が受験希望をしている。また、自由記述の数が少し減っている。11月15日には同時に近隣の他高校6校も体験入学会を実施していた。
- ・ 広報活動（中学校訪問）  
⇒7月に中高連絡会不参加30校程訪問。本校の生徒の様子を報告。12月に体験入学会に参加予定で来なかった学校へは出向き、資料を中学生に手渡ししてもらう。また、11月の中高連絡会に参加されなかった中学校にも訪問する予定。

#### ○生徒指導部

重点目標を中心に資料作成。

- ・ 規範意識：毎朝あいさつ運動を実施。強化週間も実施。交通マナーについて、特に自転車マナーについては随所で伝えているがまだまだ指導が必要。苦情の電話については2学期はあまりない。地域からの連絡をいただき、巡回指導を強化し実施している。

- ・各種行事：体育大会、文化祭。共に、生徒の反応はよかった。
  - 体育大会：後の生徒アンケートでは、80%が肯定的な意見であった。応援合戦についてのアンケートでは1、2年生の5割の生徒が次年度参加したいと述べていた。運営の面ではクラブ員の活躍や生徒会の活動が活発になっている。運営に生徒も加わっている。
  - 文化祭：教員アンケートではクラスの出し物の質が向上しているという意見が多く見られた。準備期間が短いにも関わらず、担任主導のクラス出し物ではなく生徒が頑張るようになった。オープニング、エンディング映像を生徒会が生徒のみで作成。教員は確認のみでよかった。
- ・その他：ボランティアに取り組んでいる。生徒会のメンバーが青少年赤十字に加盟し、大阪代表の3名のうち1人として11月に福島県訪問。また、校内では何ができるかを考えた結果、エコキャップ運動を始めた。課題も多いが行事等での生徒の活発な活動が目立つ。
- ・遅刻について：目標の数字を立てている。減らすために継続的に指導を行う。ひと月につき5回遅刻をした生徒は指導対象。連続して指導にかかる生徒は指導を強化している。指導を通して遅刻しないよう意識付けをしている。朝には正門や駐輪場、階段等でも挨拶、声かけを実施。生徒自身は遅刻しないように急いでいる様子が見受けられる。しかし、遅刻の数を毎日集計しているが、遅刻指導が終わると遅刻が増える傾向がある。指導の改善の余地がある。

⇒遅刻数の推移の表を参照

ここ2、3年の間では減少している。学校目標にも近づいて行っている。

#### ○進路指導部

- ・3年生179名中90名就職希望。ほとんどが学校紹介希望。本日現在57名内定。今年度は求人が増えた。特に、地元の中小企業。男子の内定率は増えた。しかし、販売職や事務を希望する女子は依然厳しい。内定者は地元企業が多い。指定校求人では133件あり、中でも大東市、門真市、東大阪市が多い。
- ・進学では、多くの生徒はAO入試で受験をした。指定校推薦では大学4名、短大4名、専門学校3名合格。
- ・一人ひとり丁寧に個別指導をしている。

### 3、 協議、意見交換

委員：授業アンケートはよい結果である。ここまでよい結果が出ることは珍しい。

生徒指導の遅刻では 2009 年が低いのはなぜか？

教諭：たまたまその年の 1、2 年の遅刻が少なかったから。

委員：遅刻届を提出するような取り組みを始めたのはからではないか。

教諭：2009 年から特別な取り組みをしたわけではない。

委員：この時の生徒は大人っぽい印象があった。考え方が大人びていて雰囲気は違っていた。

委員：広報からの報告を聞いて、体験入学会の欠席者が減り、参加者が増加したことはよいことである。生徒が作ったクリアファイルは本人の自信につながる。そういった取り組みが遅刻を減らしている原因になっているのではないか。

委員：大学のオープンキャンパスでは、参加者の多くが入学。関心持たないと入学しない。この努力はすばらしい。体験入学会では、生徒が案内するのは絶対よい。入学後のイメージができるから。生徒本人にとってもよい。

委員：広報としては生徒が行うのは怖い面もあるが、良いほうへ向かえば効果が高い。本学でも学生が説明などを行う方がメリットが多い。（ちなみに、本学では学校のメリット、デメリットの双方を言わせている。）また、中学生へのアンケートにおいてもイメージが良い方向へ変わった数が多かったという結果が出たのはよいことである。課題は残りの 22% をどうするかではないか。本学でもまず来てもらう。その内の 7 割程度が入学。近年の特徴としては高校 1、2 年生も参加者が増えている。高校においても中学 3 年だけでなく、1、2 年も参加させてはどうか。様々なアプローチをするほうがよい。

授業アンケートで、3 年生の特色はどんなものであるか。また、評価が下がっている項に関してはどうか。

教頭：各学年で教科ごとの検討はできていない。

委員：生徒評価の数学が伸びているのは良いことである。

教頭：数学では、少人数展開を実施。また、教員が授業の改善をしている。グループ学習を行ったりするなど、努力の結果ではないか。数学は本校の生徒にとって苦手な科目だが、良い結果が出ている。

校長：ベネッセのテストでは数学はやや下がっているという結果だった。数学の教員の努力もあったのではないか。

委員：生徒のアンケートが良い結果というのが良い傾向。

教頭：生徒による授業評価は 2 年目になる。当初は教員間に評価に対する疑心もあった。

今回のように良い結果が出ると教員にも励みとなる。今後もアンケートを授業改善につなげていきたい。

委員：大学では10年以上前からこのような取り組みを授業ごとに実施している。自由記述もある。年2回実施が義務。アンケートを見た教授も意識するようになり、板書方法が変わったりしている。

委員：中学での授業アンケートでは、2つの傾向がある。おもしろい先生の評価が高いことと、おもしろくはないが教材研究をしっかりしている先生の評価が高いことである。子どもの意識はおもしろいだけでなく、学びに迫る授業に惹かれているということがいえる。本日見た野崎の授業では、それぞれの先生が持ち味を発揮していた。野崎の先生も中学校に来て授業を見てもらいたい。

前の授業の板書が残ったまま授業をしていることがあった。日直が黒板を消すなど、授業環境を改善できるところはするなど基本的な部分を改善していただきたい。

また、学校同士の距離が近いので、入学希望者も多い。親しみもある。保護者、生徒の意識も高い。また、中学校の生徒指導部の意見として、下校の際にコンビニで野崎高校の生徒がたむろしていることがあり、下校指導をしてもらいたいというものがある。野崎高校に期待をしている方も多いのでがんばってもらいたい。中学校でも課題を一つずつ改善していきたい。

委員：コンビニについてはどう考えているか。

教諭：今年度の1年生の傾向で、10数名で放課後遅くまで残っている。セブンイレブンと連携し、当番の教員が見ている。コンビニとしても、邪魔さえしなければという意見もある。帰る方向が違う生徒にとって別れ際に集まる場所になっている。遠足でもバスでのマナーが悪くマナーについては1年生の課題である。地域の方からの声もあり下校指導を強化したい。

委員：大学では黒板は教員が消す。ほとんど跡は残っていない。残しておいてほしい学生もいる。

教諭：3年生では、移動教室の授業と教室の授業が半々。1、2年も習熟度別授業などで教室移動が多い。これが黒板が消せない原因の1つとなっている。

教頭：授業の雰囲気づくりも考える必要あり。反省し、教員に周知する。

住吉大社就職について。どんな仕事か

教諭：巫女さん。難しい試験だったが、本人も興味が深く、行きたい気持ちが強かった。受験報告書は細かく丁寧なものであった。見たときに、採用かもしれないと思った。

委員：学校外で地域から指摘があるのは、女子の服装などの乱れについてが多い。

学校の基準はどうなっているのか。遅刻に対する扱いはどうか。自転車と電車通学のどちら

らの遅刻が多いのか。

教諭：服装指導はしている。1、2年生が新制服、3年生は旧制服である。服装指導を強化し、基準を少しずつ上げている。1、2年は新制服の基準であるので、1番外に着るものは制服にするように指導している。スカートの長さについての指導まではできていないが、段階的に指導のレベルを上げていきたい。化粧について、普段指導はしていないが、進路行事や写真撮影等では化粧しないよう指導している。遅刻については、回数を重ねたからといって欠席扱いになることはない。指導としては、回数のカウントをして指導を行っている。自転車、電車それぞれの遅刻の分析はできていないが、特に偏りはないように感じる。生徒本人の気持ちのゆるみや寝坊が多い。

委員：大学でも同様で、場所や距離は関係ない。特殊なケースで1限目は出ているが2限目は出られない、つまり2限目では油断して遅刻してしまう生徒もいる。

委員：大東市の「大東の今と昔の写真集」について、協力して完成した。みなさんに見ていただきたい。2000部程度作成。

委員：地域での活動が活発になっている。

#### 4、 会長より

#### 5、

アンケートなどの資料や授業の雰囲気を見ることができてとてもよかった。大学では規模が大きい授業の中で寝ている生徒もいるが野崎高校は寝ている生徒がクラス単位に対して多い印象である。

グループ学習をしていた教室があった。大学の教職の授業でも5人×8グループに分け、討論し発表をしている。授業においてはただ聞くだけよりグループ活動のほうが記憶に残ることがある。テーマ設定とグループの分け方の方法を考える必要があるが、メリハリのある授業のほうが学生にも評判である。高校のクラス単位ならやってもらいたい。教師中心で行うよりは工夫が必要である。本日はとても有意義な時間を過ごせました。

#### 5、事務局より

次回の開催予定：第3回 平成27年3月実施予定。